

質問者 宮坂千尋

質問事項	質問の要旨
<p>1 地域の魅力を活かしたマッシュパークの活用を</p>	<p>令和3年8月に開園されたマッシュパーク女川。海から遊びに来た生きものたちをイメージした「遊べるアート」は、子どもや子育て世代にとって感性を育む場所となっています。</p> <p>特に公園のシンボル「うみうしくん」。ウミウシは見た目の美しさから「海の宝石」と呼ばれており、飼育可能な生き物です。遊具で遊ぶほかに、命の大切さを学んだり、生物の生態を調べ海への愛着を深めるなど、地域の特性と関連付けた独自の強みを活かすことで、女川らしい魅力を引き出せるのではないのでしょうか。そこで伺います。</p> <p>(1) これまで議会でも、公園利用者の熱中症対策として「日かげ」が必要と課題が示され、執行部でも植栽やテント設置等の対応を行ってきたと思います。</p> <p>女川スタジアム付近に設置された、東日本大震災後に中村雅俊さんから寄贈された「オレンジハウス」。常時施錠管理されていて利用者がないと伺いましたが、海岸広場、特にマッシュパークの近くへ移設し、日中の公園利用者が休憩する場所として活用してはどうか。</p>

質問者 宮坂千尋

質問事項	質問の要旨
	<p>(2) 女川は海に見えるまちづくりをコンセプトに新しいまちづくりが行われてきました。</p> <p>オレンジハウスを移設することで、公園利用者の休憩場所にとどまらず、いろいろな活用ができると思います。</p> <p>町の魅力の一つとして海は欠かせないものであり、公園のシンボルとなるウミウシの飼育や生態の紹介、海の生きものの展示を行うことで、子どもたちが海と触れ合っ地域の魅力を感じ、ふるさと女川への想いを深める機会にもなると思います。海岸広場全体としての魅力を高め、多くの方に利用してもらうための活性化対策としてはどうですか。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>

質問事項	質問の要旨
<p>2 女川町の広報戦略について</p>	<p>自治体公式LINEは全国的に活用が広がっています。スマートフォンは、情報発信の即時性に優れており、災害時や緊急時には優位性をも発揮します。本町ではX（旧 Twitter）公式アカウントから情報が発信されていますが、LINEを提案する理由として、幅広い世代で利用者が多く、プッシュ通知の強みが最大限生かせることです。通知によって、ユーザーがアプリを使用していない状況でも、情報を通知することができ、開封率が高まります。</p> <p>町政一般、イベント、子育て、防災防犯情報など、欲しい情報を選んで受け取る利便性も良く、メッセージが多くあげられます。</p> <p>鹿児島県和泊町の自治体公式LINEの活用例として、話題の大谷選手のグローブが届いたことや、期間を設けて町の図書館に展示されることが発信されてきました。本町でも、イベントや企画が多いことから、緊急時に限らず、正しい情報を伝えることは町民のために必要なものと考えます。</p> <p>女川町公式LINEの運用、導入の検討について伺います。</p> <p style="text-align: right;">（質問の相手：町長・担当課長）</p>

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
<p>1 令和6年能登半島地震への支援について</p>	<p>(1) 令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震では、住宅の倒壊など甚大な被害が発生しました。本町では1月9日に職員を派遣するなど支援が行われてきましたが、これまでの被災地支援の取組について伺います。</p>
	<p>(2) 本町もいたる所に募金箱が設置され、町民が被災地へ心を寄せ支援の輪が広がっています。東日本大震災から復興へと歩みを進めてきた本町だからこそ、力になれる部分があります。</p>
	<p>今後、どのような支援を行なっていくことが重要と考えるか、町長の見解を伺います。</p>
	<p>(3) 防災ハザードマップの更新や備蓄品の見直しも指摘されています。防災や減災の取組に限界はありません。本町としても令和6年能登半島地震を教訓にして、今一度災害に対する備えを確認しなければいけません。</p>
	<p>防災対策について強化すべき点について見解を伺います。</p>
	<p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
<p>2 町政100周年事業について</p>	<p>本町は、令和8年4月1日に町政施行100年の大きな節目を迎えます。1世紀に一度しか訪れることがないこの時は、これまで町を築いてきた先人達を敬い、本町の発展に貢献してきた全ての方に感謝を示し、皆で祝う機会ではないでしょうか。</p> <p>そして、「ふるさと女川」への愛着や誇りを高めながら、新たな100年へと町政を推進していく好機と考えます。</p> <p>(1) 町政100周年事業に向けての町長の意気込みについて伺います。</p> <p>(2) 今後、事業実施に向けて方針や体制等の骨子作りから、具体的な企画立案や準備といった各段階を踏み進んでいくと思いますが、どのようなスケジュール感で進めていくのか伺います。</p> <p>(3) 事業の機運を醸成するには町民や関係者が関わりたいと思う仕掛けが重要と考えます。事業公募等で参画意識を高めることや、町民の関心の高いペタンクやグラウンドゴルフ等の記念大会の実施も事業の推進につながると考えますが主体的な関わりを促す取組について伺います。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>

質問事項	質問の要旨
<p>1 港湾、漁港の現況と 安全対策確立を</p>	<p>令和6年を迎え、1月1日午後4時10分に激震が走りました。令和6年能登半島地震での甚大な被害は、13年前に我々も東日本大震災に遭遇したことから、地震、津波被害を受け避難を余儀なくされた境遇をテレビや新聞等の報道で目にするたびに心が痛みます。本町からも早々に職員の現地派遣を行うなど、最大限の援助を行っている旨認識しています。</p> <p>特に奥能登半島各地に発生した海底隆起といった想定外の事案、また、幹線道路の寸断という深刻な被害状況を目の当たりにし、我々も13年前の被害状況を振り返る必要があると思ひ、町内港湾、漁港施設の安全対策について伺います。</p> <p>(1) 女川湾内、北浦・五部浦地区、出島、江島における漁港の隆起変動は。</p> <p>(2) 各港に設置済みの救難用はしごの安全性に問題はありますか。また、震災後の予定設置数量に対する設置完了数と今後の設置計画は。</p> <p>(3) 12月に見込む出島架橋開通後の出島・寺間地区は、来島者、観光客の増加といったことも予想されますが、漁港での安全対策は。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>

質問事項	質問の要旨
2 指定避難所の今後は	<p>令和3年3月発行の災害から身を守るための女川町防災ハザードマップに掲載されている指定避難所に関して、宮城県の津波浸水区域の設定に伴う見直し案について伺います。</p> <p>(1) 現在の指定避難所の町内総数は。</p> <p>(2) 水害、土砂災害、高潮、津波、原子力災害等における各地区避難所の見直し案は。</p> <p>(3) 例えば避難所用地の提供について提案があった場合の当局の対応は。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>

質問者 鈴木良徳

質問事項	質問の要旨
1 出島架橋完成行事の計画は	(1) 令和6年度の事業計画において、12月完成予定の出島架橋完成記念事業の概要は。
	(2) 女川町スポーツ協会では、うみねこマラソン
	大会復活も視野に、架橋を駆け抜けるロード
	レース開催の考えもあるようですが、町当局の
	共催等協力体制の考えは。
	(質問の相手：町長・担当課長)
2 学校部活動地域移行の準備状況は	(1) 令和5年度から令和6年度以降の本町における学校部活動地域移行の進捗と課題は。
	(2) 国県として、市町村として、部活動の学校教育の一環としての位置づけが、将来的に社会教育に移行する流れですか。
	(3) 学校部活動は、仮に地域移行型になったとしても学校密着型部活動が理想と考えますが、町としての考えは。
	(質問の相手：町長・教育長・担当課長)

質 問 者 高 野 晃

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
<p>1 住民の不安に向き合う 原発行政を</p>	<p>令和6年能登半島地震は原発の安全について、いくつかの課題を私たちに突き付けています。女川原発を抱える私たち町民も他人事ではないと思っています。そこで、町長の見解と認識を伺います。</p> <p>(1) 能登半島地震は北陸電力の予想を上回る活断層の動きがありました。想定は96 kmでしたが実際は150 km程度にわたって動いたとされ、想定が甘かったと言わざるを得ません。女川原発でも周辺半径30 kmにある活断層において連動する恐れはないかもう一度調査をすべきではありませんか。</p> <p>(2) 能登半島地震の際にモニタリングポスト等が欠測した事態を受け、女川町周辺のモニタリングポストの状況はどうなっていますか。</p> <p>(3) 能登半島地震を見て、多くの町民から「逃げることができるのか」、「損壊した家において大丈夫か」などの不安が寄せられています。避難計画の見直し、改善が必要ではありませんか。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>

質問者 高野 晃

質問事項	質問の要旨
2 民有空き地の雑草問題について	<p>(1) 民有空き地で雑草が生い茂っているところが以前から見受けられますが、近隣の住民からの相談や苦情等はありませんか。</p> <p>(2) 町では民有空き地の雑草問題について、どのような対応をとってきましたか。</p> <p>(3) 民有空き地の雑草等の除去に関する条例もしくは個別政策の制定を。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>
3 加齢性難聴に問題意識を	<p>加齢性難聴は、加齢に伴い音を感じる細胞が減少することで聴力が低下する障害で、40歳代から始まり75歳以上では約半数が難聴に悩んでいるといわれます。こうした難聴の影響は、危険の察知や人とのコミュニケーションがうまくいなくなるとともに孤立やうつ症状、認知症の発症リスクを大きくするとも言われています。</p> <p>(1) 本町における加齢性難聴の方の把握はしていますか。</p> <p>(2) 町の健康診断に聴力検査の項目を。</p> <p>(3) 補聴器購入補助の検討を。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>

質問事項	質問の要旨
<p>1 能登半島地震の教訓と避難訓練</p>	<p>令和6年1月20日実施された原子力防災訓練ですが、私は登米総合体育館まで移動し、1月1日発生 の能登半島地震のような状況になったら、どのような避難ができるのだろうかとの思いで視察してきました。</p> <p>今回の住民参加者約200人のうち女川町民は33人参加とのことですが、次の点について伺います。</p> <p>(1) 町民33人の参加に至った経緯と、今後、参加住民を大幅に増やすための具体策は。</p> <p>(2) 今回の携帯アプリ活用の状況と活用できない人への対応は。</p> <p>(3) 能登半島地震を受けて（津波、道路の寸断、家屋の倒壊、モニタリングポストの損壊、停電等）の避難計画、避難訓練に活かすべき教訓は。</p> <p style="text-align: right;">（質問の相手：町長・担当課長）</p>

質問事項	質問の要旨
<p>2 「国保の県単位化」の現状と課題は</p>	<p>「国民健康保険税が高くて支払いが大変」、「将来は県内の高い保険税に統一されるのですか」等の不安の声が多く聞かれます。</p> <p>2018年に始まった「国保の都道府県単位化」から6年が経ちました。</p> <p>町の努力もあり、2億円の繰入れを行ったことで大幅な負担増は避けられていますが、現状と今後の課題等について伺います。</p> <p>(1) 国保財政の現状についてですが、以前全国知事会で国へ1兆円の財政支援を行ってきた経緯等も含めて、取組状況を伺います。</p> <p>(2) 滞納状況の実態と短期被保険証の取扱いについては。</p> <p>(3) 今後の県単位化の見通しと課題は。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>

質問者 鈴木 公 義

質問事項	質問の要旨
1 人口減少対策について	<p>国立社会保障・人口問題研究所の「将来推計人口」では、2050年の宮城県の人口が182万人という予測がされました。前回に比べ減少スピードが加速しています。県内市町村別の推計では、本町は52.4%減の3062人になり、減少率は県内で4番目となっています。</p> <p>(1) 本町での人口減少に対する見解、移住施策等の人口減少対策を伺います。</p> <p>(2) 活性化により、人口減少対策の一助となりうる町民会議のこれまでの動きについて伺います。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>
2 水産振興について	<p>近年の地球温暖化の影響と見られる周辺の海水温度の変化により、本町の水産業にも不気味な影が近づいています。サンマの不漁、小型船によるイサダ漁等春漁の不漁もあり、水産加工業者の原料不足が見られます。水産養殖においては、ホタテ、カキ、ホヤ等へい死が多くなっています。昨年の夏は、地球沸騰化という言葉も生まれました。</p> <p>(1) 水産加工業者、流通業者に対し、行政としてできることは。</p>

質問者 鈴木 公 義

質問事項	質問の要旨
<p>3 能登半島に思いを馳せて</p>	<p>(2) 漁業、水産養殖業者に対する施策は。</p>
	<p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>
	<p>1月1日に発生した地震により、甚大な被害を受けた能登半島に向けて各地、各方面から支援の輪が広がってきているところです。</p>
	<p>(1) これまでの本町の動きと今後の支援計画は。</p>
	<p>(2) 復興期において、震災を経験した本町だからこそできる助言や、反省点を伝えることができると思いますが。</p>
	<p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>